

全国都市再生モデル調査概要様式

1 . 応募団体名	玉野市役所企画部企画課 担当：谷井 TEL:0863-32-5505 ,FAX:0863-32-5507
2 . 調査名	玉野みなと国際芸術祭事業化を活用したみなとまちづくり方策検討調査
3 . 推薦団体名	-
4 . 調査の対象地域	
(1) 対象となる行政区域名、地区名等	岡山県玉野市宇野港周辺
(2) 対象となる行政区域及び地区の特徴	玉野市人口 約7万人 対象地区：重要港湾宇野港および、周辺の商業地区、住宅地区
5 . 提案した活動の内容	
(1) テーマ、課題	<p>宇野港周辺を玉野市の中心地として再生するため、宇野港宇野地区のにぎわい創出や、後背市街地の活性化の実現を図るために実施する。</p> <p>宇野港を舞台に、市民主体の実行委員会を組織し、市民参加を基本とした新しいコンセプトによる芸術祭を実施し、宇野港を全国に発信するとともに、市民のまちづくり意識の向上をはかる。</p>
(2) 本調査費による活動内容の概要	<p>本調査により行われた活動内容の概要</p> <p>1 . 事前検討会議（関係者説明会） 計2回開催（平成15年9月）参加者平均14名 参加者：商工会議所青年部、商店団体連合会 スマイルネット玉情協、テイクオフなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容の是非について大激論が交わされた。 ・NPO（当時申請準備中）スマイルネット玉情協が中心となって進めることが決められた。 <p>2 . 拡大実行委員会 計2回開催（平成15年12月4日、平成16年1月28日） 委員：協力要請先の市内各団体代表者20名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動方針の説明と協力依頼 <p>3 . 実行委員会 計5回開催（平成15年12月～平成16年2月、参加者平均7名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容の検討 <p>4 . 「海・港・船と芸術」シンポジウムの開催 平成15年12月16日開催</p>

- 参加者：65名
 ・環境芸術家八木マリヨ氏による講演およびパネル
 ディスカッションを実施。
- 5．ワークショップ（帯縫い、縄作り）
 各団体ごとに実施
 平成15年11月～平成16年1月
 参加者：延べ約3,000人
- 6．ファイナルイベント
 平成16年2月7日、8日実施
 実施内容と参加人数：
 ・7日：縄柱組上げ、ボランティア約100名参加
 ・8日：縄柱倒立、ファイヤーセレモニー
 約800名参加
- 7．イベントを踏まえた今後の方針の検討
 平成16年3月17日実施
 ・実行委員会代表及び玉野市企画課により来年度の
 方向性を検討。参加者5名。



拡大実行委員会



「海・港・船と芸術」シンポジウム



小学校でのワークショップ



ファイナルイベントの様子



ファイナルイベントの様子



完成したモニュメント



ファイルバント位置図（それまでの縄縄いワケショップは市内各地で開催）

本調査以外の財源を投じたり、あるいは経費をかけずに、本調査の一環として行った活動内容の概要

- ・なし

6．本調査と関連する活動実績

宇野港を中心としたまちづくりの推進施策
 ・「宇野港周辺地域再生プラン」の策定（平成15年度）
 宇野港宇野地区へのにぎわい創出や観光ネットワークの構築による宇野港の拠点化を検討。
 ・「みなとまちづくり」の推進（平成15年10月～平成16年1月）
 にぎわい創出拠点施設「クッチーナ・デ・ウーノ」の整備に伴い、市民参加のにぎわい創出の取り組みを支援。

7．本調査の成果等、本調査の実施過程で顕在化した課題など

(1)得られた成果
 市民参加によるイベントの成功
 これまでになかった規模での市民参加、文字通り市民の力を結集し、非常に短期間に、目標を上回る枚数のTシャツを集め、縄柱を組上げることができた。
 過去に同様な事例を行ったケースと比べても、約半分の期間で目標を達成できており、玉野市民の底力を発揮できたことについて、非常に自信となるものであった。
 宇野港のPR
 今回のイベントは今後も継続して、市民が参加する取り組みとして、実施中から新聞、TVなどのメディアで取り上げられ、宇野港を芸術と文化の香る港としてPRすることができた。
 NPOの育成支援
 市民主体の実施体制をつくる中で、既存の商工関係団体に加え、当時設立に向け準備をしていた「NPOスマイ

ルネット玉情協」にも参加を呼びかけていた。イベントの企画運営への参加経験をこれからの活動に少しでも活かしてもらえればという意図であった。ところが、結果として、定年退職を迎える60歳前後のメンバーが、それまで企業で培ってきた能力や地域とのつながりをフルに活用し、イベント推進の中心となって活動を行うこととなった。今回の取り組みは、リタイア後のまだまだ元気なパワーをまちづくりの力としていく有効な事例と見ることが出来る。

(2) 顕在化した課題

市民へのPRの難しさ

ファイナルイベントにおいては、非常に寒い日であったこともあるが、来場者数が800名余りとやや少ない結果となった。中には、見に行くつもりだったが、気がついたらイベントが終わっていたという意見もあった。

チラシの配布や公共施設へのポスター掲示、市の広報紙への掲載などによりPRをしてきたつもりだったが、市民への浸透が不十分であったと言える。

今後は、イベントの継続による市民への浸透を図るとともに、定常的に見られるような工夫も行っていく。

今後の実施体制の拡大

今回の取り組みは、期間が短かったこともあり、NPOメンバーが中心となり、既存の各種団体へ協力を仰ぎながらの実施であった。今後はさらに広く企画運営に参加するメンバーを募り、市民の芸術祭として定着を目指しながら、地域の力を育てていく必要がある。

(3) 課題を踏まえた今後の方針

長期的な方針

今後数年かけて、新たな芸術文化を玉野市に根付かせ、宇野港を活気あふれる芸術港とすることを目指す。実施にあたっては、今後も市民主体の実行委員会において議論を重ねながら、幅広い市民参加を図り、地域資源を活用した、特色のある芸術祭にしていく。

来年度の取り組み

ワークショップ、シンポジウムを定期的に行いながら市民の参加意識を醸成するとともに、近隣の芸術系大学などの芸術関係者とも連携を図りながら、市民と芸術家の協働を基本コンセプトにした実施内容を検討する。また、既存市街地において、定常的に見ることが出来る形での展開も検討していく。